

「おほしやまのたね」

脚本・絵
やまがみ

①

②

モグラのお家は土の中。くらーい、くらーい、土の中。

モグラのモグ太は、今日は一人で、お留守番をしています。
窓の外を眺めては、

もぐ太 「土の上に出てみたいなあ。

土の上は、どんな所なんだろう」

とまがえしていました。

③

しばらくすると、モグ太は、

モグ太 「お母さんは、『一人で土の上に出てはだめですよ』って言ったけど、チョットだけならいいかなあ」

そう言いながら、小さな穴から顔を出してみました。

モグ太 「わあ、きれいだなあ。あのキラキラ光っているのが、お星様って言うんだね。きこー」

そう言いながら、キョロ、キョロ あたりを見回していると、そばにカエルがたおれているのに気がつきました。

モグ太 「カエルさん、大丈夫。どうしたの」

そう言いながらモグ太は穴から出ると、

④

モグ太 「僕が連れて帰ってあげるからね」

そう言いながらカエルを背負って夜道を歩き出しました。

カエルの家に着くと、カエルは

カエル 「これは、お礼だよ」

と言って、一つぶの種をモグ太にくれました。

⑤

モグ太は、カエルにもらった種を家のそばに植えると、いそいで、土の中のお家うちへと帰って行きました。

⑥

いく日かたって、種は芽を出し
かわいい黄色の花を付けました。

でも、土の上に出てこられないモグ太には、
見ることができません。

とじろが、いったいどうしたとどきしよ。

⑦

不思議なことが起こりました。

花が散ると、その後から、くきの様な物が出てきて、

どんどん、どんどん、土の中へ向かって伸び始めたではありませんか。

土の下の家では、モグ太が、いつものようにボンヤリと窓の外を眺めていました。

すると、突然

モグ太 「あっ お星様だあ。」

と、叫びながら、モグ太は庭へ飛び出しました。

モグ太 「わあ、きれいだなあ」

モグ太 「お星様だ、お星様だよ。」

お母さん、早くきてよ」

と、お母さんをよびました。

モグ太の声にビックリして出て来たお母さんは、

母 「まア、たくさんの落花生ラッカセイだこと。いったいどうしたのかしら」

と、言いました。

すると、モグ太が、

モグ太 「ぼくだよ、ごめんなさい、お母さん」

と少し下を向きながらモグ太は言いました。

そして、カエルさんとのことを、お母さんに話しました。
話を聞いたお母さんは、

母 「優しい子ねえ。大好きよ、モグ太」

そう言いながら、ギュッとだきしめてくれました。
それから、モグ太に落花生の話をしてくれました。

母

「落花生はね、花が散ると、その後から、
くきのようなものが出てくるのよ。
そして、それを土の中へ向かって、どんどん伸ばしてらるの。
そして、土の中に実をつけるのよ。
不思議でしょう。こんなステキな実をつけるの。
これが、土の中のお星様。落花生なのよ」

と、お母さんは、言いました。

モグ太

「じゃあ、カエルさんは、僕に、お星様の種をくれたんだね。
お母さん」

と、モグ太がいました。

それから、お母さんは、落花生の実から油をとったり、バターを作ったりして、クッキーやパンや、お菓子を作ってくれました。

ご馳走ができあがると、

お母さんは、カエルさんを食事にまねいてくれました。

そして、モグ太は、土の上のお話をカエルさんから、いっぱい、いっぱい、聞くことができました。

おしまい